

# 設問別調査結果 [中学校国語A:主として知識]

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	5	ほぼ同程度	80.1
	書くこと	2	ほぼ同程度	55.2
	読むこと	9	ほぼ同程度	71.0
	言語事項	18	ほぼ同程度	75.2
問題形式	選択式	21	ほぼ同程度	71.3
	短答式	13	ほぼ同程度	77.4
	記述式	0		

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。  
 … + 3.1ポイント以上  
 … + 0.1ポイント～3.0ポイント  
 … ほぼ同程度  
 … - 0.1ポイント～ - 3.0ポイント  
 … - 3.1ポイント以下

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			全国(公立)		札幌市		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)	
1ー	話合いの一部を読み、発言の仕方の良い点の説明として適切なものを選択する	話の構成に注意しながら的確に聞き取る									61.7	0.3		0.3
1ニア	話合いの方向をとらえた司会の適切な発言を選択する	話合いの方向をとらえて、適切な発言をする									80.5	0.4		0.4
1ニイ	話合いの方向をとらえた司会の適切な発言を選択する										92.8	1.2		1.1
2ー虎	故事とその解説を読み、「虎」にたとえられている人物を選択する	文章の展開に即して内容を読み取る									64.3	0.4		0.4
2ー狐	故事とその解説を読み、「狐」にたとえられている人物を選択する										58.9	0.4		0.4
2ニ	たとえ話を踏まえ、故事成語(虎の威を借る狐)の意味として適切なものを選択する	文章の展開をおさえながら中心的な内容を考える									77.7	0.4		0.4
3ー	意見文に対する評価として適切なものを選択する	論理の展開に着目し、評価・批評する									39.7	0.4		0.4
3ニ	他の人の意見文を参考に段落分けをしたものとして、適切な組合せを選択する	適切な段落を設けて、論理的な文章にする									70.8	0.6		0.4
4ー	インタビューをする際の心がけとして適切なものを選択する	効果的なインタビューをするための準備をし、調べたことなどを適切に生かす									74.4	0.6		0.6
4ニ	インタビューの展開に即した質問を書く	話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考えて、適切な質問をする									91.3	4.0		3.7
5ー	事象(茶わんの湯気の渦の様子)について書かれた一文を本文中から探して書く	論理の展開の仕方に即して、内容を読み取る									45.4	5.5		5.1
5ニ	記述の一部を、文章中の他の言葉を使って書き換える										58.1	14.8		14.0
5三	文章の展開についての説明として適切なものを選択する	文章の展開の仕方を読み取る									73.9	1.0		0.9
6ー1	漢字を書く(将来のことはヨソクできない)	文脈に即して漢字を正しく書く									63.2	15.1		14.0
6ー2	漢字を書く(富士山をハイケイに写真をとる)										77.5	10.1		10.9
6ー3	漢字を書く(一定の温度をタモつ)										83.5	12.5		12.3
6ニ1	漢字を読む(標準記録を突破する)	文脈に即して漢字を正しく読む									96.8	2.1		1.6
6ニ2	漢字を読む(このホールは音響効果が良い)										90.6	4.1		2.8
6ニ3	漢字を読む(世界の平和を祈る)										97.2	1.7		1.4
6ニア	適切な同訓異字を選択する(お皿のふちが欠ける)		語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う									88.9	1.1	
6ニイ	適切な類義語を選択する(考えを変えるように彼を説得してください)										94.9	1.0		0.8

6三ウ	適切な副詞の呼応を選択する（彼の性格を考えると、おそらく来ないだろう）										97.4	1.0		0.8
6三エ	適切な語句を選択する（大水のために、他の町との交通がしばらくとだえた）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う									92.3	1.1		0.8
6三オ	適切な語句を選択する（彼がこの討論の口火を切った）										54.7	1.4		1.2
6三カ	適切な敬語を選択する（校長先生は、壁にはった生徒の絵をご覧になりました）										74.3	1.5		1.1
6三キ	適切な同音異義語を選択する（中学生を対象に調査する）										66.0	1.1		0.8
6四	行書、楷書の特徴の説明として適切なものを選択する		漢字の楷書と行書の違いを理解している									79.9	1.3	
6五	見やすく書かれている伝票の説明として適切なものを選択する	配列・配置に注意して書く									45.1	1.4		1.0
6六ア	漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいものを選択する（街頭）	辞書を活用して、漢字が表している意味を正しくとらえる									71.6	1.8		1.3
6六イ	漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいものを選択する（年頭）										37.9	2.0		1.5
6七	国語辞典で調べたことをもとに、慣用句の意味を書く	辞書を活用して、慣用句の意味を適切に書く									41.4	22.2		20.9
6八ア	「竹取物語」の冒頭部分の文章に句点をつける	古文の中の文のまとまりをつかむ									87.3	5.5		4.4
6八イ	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いふ)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む									91.9	4.6		3.8
6八イ	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(あたり)										81.7	5.6		4.4

## 【設問分析】

### 1 話し合いをする

①は、話し合いが効果的に展開するよう話したり聞いたりする力をみる設問である。設問一では、話の構成に注意しながら的確に聞き取ることができるかどうかについて、設問二では、話し合いの方向をとらえて、適切な発言をすることができるかどうかについて、それぞれ選択形式で問われている。

【設問一】話の構成に注意しながら的確に聞き取ること

- ・話し合いの一部を読み、発言の仕方の良い点の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】話し合いの方向をとらえて、適切な発言をすること

- ・話し合いの方向をとらえた司会の適切な発言を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「全体と部分、事実と意見との関係に注意して、話したり聞き取ったりすること」については、全国の平均正答率を上回っているが、「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること」についてはほぼ同程度である。今後も、言語活動としての話し合い活動を通して、聞き手として話の構成に注意しながら的確に聞き取ることや、話し手として話し合いの方向をとらえて、適切に発言することなど、話の構成や論理の展開を考えながら話し合いに取り組む力を充実させるていく必要がある。相手の発言を注意深く聞き取ったことを、簡単なメモにまとめて自分の考えに生かしていく指導も効果的である。

話し合いの指導をする際には、話し合いの目的を明確にしてから取り組む必要がある。また、話題や方向に沿って効果的に話し合いが展開されるように指導することが大切である。自分の考えと他者の考えを比較したり、自分の考えと全く別な考えも尊重したりしてより良い解決が図られたかどうかを振り返らせる学習も必要である。

### 2 故事成語に親しむ

②は、文章の展開に即しておおよその内容をとらえる力、中心的な内容を考える力をみるための設問である。設問一では、文章の展開に即して内容を読み取ることができるかどうかについて、設問二では、文章の展開をおさえながら中心的な内容を考えることができるかどうかについて、それぞれ選択形式で問われている。

【設問一】文章の展開に即して内容を読み取ること

- ・故事とその解説を読み、「虎」や「狐」にたとえられている人物を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】文章の展開をおさえながら中心的な内容を考えること

- ・たとえ話を踏まえ、故事成語（虎の威を借る狐）の意味として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているが、「文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること」についてはやや上回っている結果となった。

古典を指導する際には、原文や現代語訳、解説文など複数の種類の文章を、生徒の実態に即して適切に取り上げながら、生徒の古典に対する興味や関心が高まるように配慮していく必要がある。故事成語の指導にあたっては、故事成語自体の言い回しや言葉の意味そのものを覚えるだけではなく、もとになった故事について理解を深めていく学習が大切である。既習の故事成語を取り入れた短文をつくって交流したり、新しく調べた故事について、故事成語とともに簡単に説明する活動を取り入れるなどして、故事成語に親しみをもちながら学習が進められるよう配慮していく必要がある。長々と状況について説明している内容を、端的に故事成語を使って説明できることもある。効果的に使われている故事成語について、内容の読み取りに生かしながら理解を深めていく学習を展開することで古典に対する親しみを一層もたせていく指導も重要である。

### 3 評価・批評を推敲に生かす

③は、文章を互いに読み合って評価・批評する力、それを生かして自分の文章を推敲する力をみる設問である。設問一では、論理の展開に着目し、評価・批評することができるかどうかについて、設問二では、適切な段落を設けて、論理的な文章にすることができるかどうかについて、それぞれ選択形式で問われている。

【設問一】論理の展開に着目し、評価・批評すること

- ・意見文に対する評価として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているが正答率は低い。

【設問二】適切な段落を設けて、論理的な文章にすること

- ・他の人の意見文を参考に段落分けをしたものとして、適切な組み合わせを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」領域における、「書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などについて自分の表現に役立てること」については、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は低い結果であった。また、「書いた文章を読み返し、文や文章を整えて説得力のある文章にすること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている結果となった。文章の段落構成や論理の展開、材料の活用の仕方について吟味したり、評価・批評の観点を明確にして互いの文章を読み合い、優れた表現を自分の表現に生かして推敲したりする指導については、今後も継続していく必要がある。また、説得力のある整った文章にするために、自分の書いた文章を読み返すことを学習に位置付けて習慣化させる指導を充実していくことも重要である。

### 4 インタビューをする

④は、実際にインタビューをしている場面を題材にして、効果的なインタビューができるかどうかをみる設問である。設問一では、効果的なインタビューにするための準備をし、調べたことなどを適切に生かすことができるかどうか、設問二では、話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考えて、適切な質問をすることができるかどうかについて、設問一は選択形式で、設問二は短答式で問われている。

【設問一】効果的なインタビューにするための準備をし、調べたことを適切に生かすこと

- ・インタビューをする際の心がけとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考えて、適切な質問をすること

- ・インタビューの展開に即した質問を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

る。

「話すこと・聞くこと」領域における、「広い範囲から話題を求め、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることや、話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて話したり聞き取ったりすること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後も、インタビュー等の言語活動を設定する際には、下調べをして聞きたい事柄を整理しておくなど質問事項を事前に準備するよう指導したり、話の展開に即して質問を変えするなど臨機応変に対応できる力を身に付けさせておくことも重要である。

## 5 随筆を読む

⑤は、身近な出来事から自然現象をとらえていく科学的な内容の随筆を取り上げ、文章の内容を把握し、文章の展開をとらえることができるかどうかをみる設問である。設問一と設問二では、論理の展開の仕方に即して内容を読み取ることについて、設問三では、文章の展開の仕方を読み取ることについて、設問一、二は短答式で、設問三は選択式で問われている。

【設問一】論理の展開の仕方に即して、内容を読み取ること

・事象について書かれた一文を本文中から探して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが正答率は低い。

【設問二】論理の展開の仕方に即して、内容を読み取ること

・記述の一部を、本文中の他の言葉を使って書き換える設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

【設問三】文章の展開の仕方を読み取ること

・文章の展開についての説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「文章の構成や展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約したり、内容の理解に役立てたりすること」については、全国の平均正答率を上回るか、やや上回る状況である。内容を正確に理解するためには、指示語の内容を検討したり、具体例を参考にしながら、イメージを確かなものにしていく書き手の工夫を読み取ることも必要である。また、小説や物語だけでなく、簡単な科学的な内容を扱った文章をはじめとする様々な種類の文章に触れる機会を、意図的・計画的に設定することで、生徒に広く読書に親しむように働きかけることも大切である。また、読書を通してより確かな知識を身に付けるために、同じテーマで書かれた異なる複数の作品を比較して読む指導も効果的である。

## 6 言語事項等

⑥は、言語や言語文化に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうかをみる設問である。漢字の読み書きについて六つの設問で構成されている。

【設問一】文脈に即して漢字を正しく書くこと

(1) 「予測」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

(2) 「背景」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

(3) 「保(つ)」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】文脈に即して漢字を正しく読むこと

(1) 「突破」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

(2) 「音響」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

(3) 「祈る」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

(ア) 適切な同訓異字(「欠ける」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(イ) 適切な類義語(「説得」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(ウ) 適切な副詞の呼応(「おそらく～だろう」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(エ) 適切な語句(「とだえた」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。  
(オ) 適切な語句(「口火」)を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。  
(カ) 適切な敬語(「ご覧になりました」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(キ) 適切な同音異義語(「対象」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

【設問四】漢字の楷書と行書の違いを理解していること

・行書、楷書の特徴の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

【設問五】配列・配置に注意して書くこと

・見やすく書かれている伝票の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問六】辞書を活用して、漢字が表している意味を正しくとらえること

(ア) 漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいもの(「街頭」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(イ) 漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいもの(「年頭」)を選択する設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

【設問七】辞書を活用して、慣用句の意味を適切に書くこと

・国語辞典を調べたことをもとに、慣用句の意味を書く設問では、全国の平均正答率を上回っているが正答率は低い。

【設問八】古文の中の文のまとめりをつかむこと

(ア) 「竹取物語」の冒頭部分の文章に句点をつける設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(イ) 歴史的仮名遣いの「いふ」を現代仮名遣いに直す設問では、全国の平均正答率よりやや上回っている。

(イ) 歴史的仮名遣いの「あたり」を現代仮名遣いに直す設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「言語事項」における、「漢字の読み書き」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているか、やや上回っている状況にある。今後も、漢字の指導においては、使用頻度の低いものを意図的に取り上げたり、同じ漢字を用いた他の語句と関連付けたりさせながら、確実な定着を図るための指導を工夫することが必要である。

「語句の意味を理解し適切に使うこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。語句の指導においては、同訓異字や同音異義語、類義語、慣用句、副詞の呼応に係わる適切な文末用言の用い方などについて日ごろの会話や記述でも意識して使い、難しい言葉を使うことへの抵抗をなくすよう、普段から様々な語句や表現に慣れ親しませるようにすることが大切である。また、言葉のきまりに関する指導については、書くことの指導における推敲の学習とも関連させて丁寧に指導することが大切である。

「敬語」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。昨年度の結果は、やや下回っていたため、指導の改善が図られていると考えられるが、今後とも相手や場面に応じて、尊敬語と謙譲語を正しく使い分けて使用できるように指導を充実させていく必要である。

「楷書と行書の特徴の理解」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、「配列や配置に注意して書く」については、全国の平均正答率を上回ってはいるものの、正答率は低い傾向がある。文字の配列や配置の指導においては、様々な人が見る掲示物を書くときなどで、「読みやすく書く」ということを、より意識させる必要がある。文字を書く目的や場面に応じて、適切な文字の大きさや配置・配列などを考えながら書く指導を重点的に行う必要がある。今後とも、系統的な書写の指導が必要であることは言うまでもなく、行書の指導においては、行書の特徴を正しく理解させ、場面に応じて普段から意識的に行書を用いて書かせることが必要である。

「古典に親しむこと」については、全国の平均正答率を昨年の結果と同様に上回っている。古典の指導においては、今後とも、本文を繰り返し音読させることで歴史的仮名遣いに慣れさせたり、代表的な古典の著名な部分に触れさせたりして古典に親しませることが大切である。

# 設問別調査結果 [中学校国語B:主として活用]

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0		
	書くこと	4	ほぼ同程度	46.7
	読むこと	10	ほぼ同程度	60.8
	言語事項	1	ほぼ同程度	60.5
問題形式	選択式	6	ほぼ同程度	70.3
	短答式	0		
	記述式	4	ほぼ同程度	46.7

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。  
 … + 3.1ポイント以上  
 … + 0.1ポイント～3.0ポイント  
 … ほぼ同程度  
 … - 0.1ポイント～ - 3.0ポイント  
 … - 3.1ポイント以下

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			全国(公立)		札幌市	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)
1一	資料中の言葉(フロリゲン)についての適切な説明を選択する	文章の内容を正確にとらえる								68.1	0.3		0.5
1二	資料中の文章表現の仕方についての適切な説明を選択する	文章が書かれた目的を考え、表現の仕方の特徴をとらえる								67.4	0.5		0.6
1三	別の資料に書かれている新しい情報を選び出し、条件にしたがって書き換える	資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く								26.5	17.6		17.4
2一	登場人物の関係を適切に表している組み合わせを選択する	登場人物の人間関係を整理する								79.0	0.5		0.6
2二	登場人物の行動から読み取れる心情として適切なものを選択する	登場人物の心情をとらえる								75.2	0.7		0.8
2三	登場人物の行動を読み取り、付箋に整理して書く	表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書く								46.0	21.9		21.7
2四	登場人物が大切にしていると考えられることを四字熟語と関連付け、80字以上120字以内で書く	文章に表れているものの見方や考え方について、四字熟語を手がかりにして理解し、説明する								60.5	27.9		29.5
3一	レポートの内容についての適切な説明を選択する	レポートの特徴や工夫をとらえる								78.3	1.6		1.4
3二	グラフから読み取れることの説明として、適切なものを選択する	文章やグラフから必要な情報を正しく読み取る								53.6	2.0		1.8
3三	「全然」の使い方についての自分の考えを、根拠を明確にして70字以上100字以内で書く	読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書く								53.7	13.5		14.3

### 【設問別分析】

#### 1 情報を更新する

1は、複数の資料を読み比べて、その違いに気付き、適切な情報を選び出して書き換える力を身に付けているかどうかをみる設問である。設問一では、文章の内容を正確にとらえることについて、設問二では、文章が書かれた目的を考え、表現の仕方の特徴をとらえることについて、設問三では、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことについて、設問一、設問二は選択形式で、設問三は記述式で問われている。

#### 【設問一】文章の内容を正確にとらえること

・資料中の言葉についての適切な説明を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問二】文章が書かれた目的を考え、表現の仕方の特徴をとらえること

- ・資料中の文章表現の仕方についての適切な説明を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと

- ・別の資料に書かれている新しい情報を選び出し、条件にしたがって書き換える設問では、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は低い。また、他の問題と比較して無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における、「文章の内容を正確にとらえたり、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」については、全国の平均と比較して、やや上回っている。「読むこと」領域と「書くこと」領域に係わる、「目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てたり、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして書くこと」については、全国の平均正答率を上回っている。

今後とも、学校図書館等を有効の活用しながら、様々な資料から必要な情報を比較分析して、より確からしい情報を収集したり、複数の情報を吟味し、必要に応じて取捨選択した情報を自分の表現に活用するなどして、根拠を明確にした説得力のある表現づくりのための指導を工夫していくことが求められる。今後とも、文章と文章、文章と表（資料、長文と短文など複数の資料）を比較し、共通点や相違点を正しくとらえさせて整理させることや、一つの情報のみで判断するのではなく、複数の情報を吟味しながら、自分の考えをまとめていく学習を行うなど、様々な角度から情報を活用する力を育てていく必要がある。

自分の意見や考えに説得力をもたせるためには、中心となる主張を明確にすることと、具体的な資料を活用して主張の裏付けとなる根拠を明らかにすることの指導が必要である。自分の考えを推敲・記述する際には、これら二つの視点が述べられているかどうかを確認することも重要である。

## 2 目的意識をもって文学作品を読む（馬盗人）

② は、目的意識をもって文学作品を読み、読み取ったことを、四字熟語などの既習の知識を生かしながら理解し、効果的に説明する力をみる設問である。設問一は、登場人物の人間関係を整理することについて、設問二は、登場人物の心情をとらえることについて、設問三は、表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くことについて、設問四は、文章に表れているものの見方や考え方について、四字熟語を手がかりにしながら理解したり、説明したりすることについて、設問一と設問二は選択形式で、設問三と設問四は記述式で問われている。

【設問一】登場人物の人間関係を整理すること

- ・登場人物の関係を適切に表している組み合わせを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】登場人物の心情をとらえること

- ・登場人物の行動から読み取れる心情として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くこと

- ・登場人物の行動を読み取り、付箋に整理して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問四】文章に表れているものの見方や考え方について、四字熟語を手がかりにしながら理解し、説明すること

- ・登場人物が大切にしていると考えられることを四字熟語と関連付け、80字以上120字以内で書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。また、他の問題と比較して無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における、「登場人物の人間関係を整理したり、登場人物の心情をとらえること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、「書くこと」領域における「文章の形態に応じて適切な構成を工夫したり、自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと」と「読むこと」領域における、「表現の仕方や文章の特徴に注意して読んだり、文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること」とを関連付けた設問では、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

文学作品を読む場合には、内容を理解するだけでなく、使われている表現や作品全体の構成等とその効果について考える指導を工夫することが必要である。

また、自分の考えが相手に効果的に伝わるように書くために、根拠を示して説得力をもたせながら、筋道立てて書くことはもちろんのこと、その際、本文を引用するなどして、根拠を客観的に述べる方法等も併せて指導することが必要である。

### 3 言葉について考える（全然）

【3】複数の資料から必要な情報を読み取り、それらを根拠にして自分の考えを書くことができるかどうかをみる設問である。設問一は、レポートの特徴や工夫をとらえることについて、設問二は、文章やグラフから必要な情報を正しく読み取ることについて、設問三は、読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書くことについて、設問一と設問二は選択形式で、設問三は記述式で問われている。

【設問一】レポートの特徴や工夫をとらえること

・レポートの内容についての適切な説明を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】文章やグラフから必要な情報を正しく読み取ること

・グラフから読み取れることの説明として、適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書くこと

・「全然」の使い方についての自分の考えを、根拠を明確にして70字以上100字以内で書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。また、他の問題と比較して無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における、「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てることや、様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること」については、全国の平均正答率をやや上回っているが、「書くこと」領域と関連付けながら「資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと」については、全国の平均正答率を上回ってはいるが、無回答率が高くなっている。

レポート等の特徴や工夫をとらえたり、グラフから必要な情報を正しく読み取るとは、文章の内容理解を深めることに役立つものである。今後も、グラフなどの非連続型テキストを含めた様々な資料を用い、情報を整理する指導を取り入れていくことが必要である。

また、整理した情報を有効に活用して自分の意見を根拠立てて書くためには、情報を整理する力の他に、情報を正しく認識したり分析したり吟味したりする力が必要となる。資料の比べ読みなどで情報の共通点や相違点を見付ける学習や、表面的には異質の印象を受ける情報であっても、深く考えるとつながっている情報もあり、情報を関連付けて総合化を図る学習などを積み重ねる指導も有効である。

さらに、複数の資料を比較して、共通点や相違点を明らかにし、情報を整理したうえで、自分の考えを最後まで書ききる指導も重要となる。目的に応じて情報を適切に活用し、根拠を明確にして説得力のある意見文を書く力を身に付けさせる指導の工夫が必要である。



## 国語学習に関する意識結果 【中学校】

質問事項 * 印の設問は、昨年度と同様の内容	選 択 肢			
	当てはまる	どちらかとい えば、当ては まる	どちらかとい えば、当ては まらない	当てはまらな い
国語の勉強は好きですか。 *	24	35.8	26.2	13.7
国語の勉強は大切だと思いますか。 *	49.1	37	9.7	3.9
国語の授業の内容はよく分かりますか。 *	20.5	46.8	25	7.4
読書は好きですか。 *	45.4	23.3	18.1	12.9
新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか。 *	24	31.6	30.5	13.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。 *	38.5	39.4	15.7	6
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	10.8	29.8	42.7	16.3
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。	8.8	30.6	41.9	18.4
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。	18	39.8	30.6	11.3
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか。	22.7	41.5	26	9.2

（単位は％）

### < 設問分析 >

「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が、59.8%となっており、全国平均を4.6ポイント上回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が57.9%と、同様の傾向が見られるが、全国平均を1.1ポイント上回っていたのに比較して、数値が若干高くなっている。今後とも、引き続き生徒の興味関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。

「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、86.1%と昨年同様に高い数値となっているが、全国平均と比較すると1.2ポイント低くなっている。今後も学習した内容が生活の中で活用され、生徒に国語の必要性を感じさせるような授業づくりが求められる。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、67.3%となっており、全国平均を0.5ポイント上回っているものの、昨年度は、全国平均を1.7ポイント下回っていた項目であることから、今後も、分かる授業づくりに向けて、工夫改善が求められる。

「読書は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が、68.7%となっており、全国平均を0.3ポイント下回っている。昨年度の調査では肯定的に回答した割合が、66.5%で全国平均を1.4ポイント下回っていたことから、読書を肯定的にとらえている生徒の割合は増えている。読書活動は、生徒の言語力の育成にも有効であり、あらゆる機会を通じて、読書に親しむ活動を積極的に展開していくことが求められる。

「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、55.6%となっており、全国平均を2.9ポイント下回っている。昨年度は3.1ポイント下回っていたことから、その差が小さくなってきている項目である。言語事項の学習は、国語の3領域の学習を支えるものであり、言語活動を充実させる基盤となる力を養う学習となる。他の教科や日常生活との関連も図りながら、確実な定着が求められる。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、77.9%となっており、昨年度の83.6%より低くなっている。また、全国平均と比較しても1.8ポイント下回っており、生徒が国語の学習の有用性を感じることできるような学習指導の展開が求められる。

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、40.6%で、全国平均より2.5ポイント下回っている。資料を有効に活用しながら、問題解決を図ったり、作品を根拠に基づいて批評したり意見を述べたりすることは、

OECD調査の読解力を身に付けるためにも有効な学習となるため指導の充実が求められる。

「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、39.4%で、全国平均より0.5ポイント下回っている。自分の意見が相手（聞き手）に正確に伝わるように心がけることは、日常の言語活動においても大切なことであり、場面や相手に応じた効果的な話し方を意識することが求められる。

「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、57.8%で、全国平均より2.3ポイント上回っている。根拠を明確にして書くことは、説得力のある表現にもつながることなので、書くときの心構えとして一層意識化させていくことが大切である。

「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、64.2%で、全国平均より2.7ポイント上回っている。文章の構成や工夫された表現を、書き手の意図を考えながら読み進めていくことは、同時に中心的な部分と付加的な部分や事実と意見を区別しながら読むことにもつながり、要約する学習にも有効な読み方であることから充実が求められる。